

いまだ追いつけない恩師：藤原道夫先生

小林英司

平成の年号が終わりを告げようとしているが、著者は医師として初めて研究の世界を見たのが平成元年である。1982年に自治医科大学を卒業し、外科医師としての7年間の修行を生地新潟の地方病院で積んでいた。そして平成元年4月に飛び込んだ新潟大学医学部免疫学教室には、藤原道夫教授がおられた。藤原先生が、当時医学生に行っていた講義ノートがいまも捨てきれないでいる。30年経ったいまでもそれに追いつく学問的講義ができていない証拠であると苦笑している。しかし、時代がペーパーレスとして電子媒体ですべてが記録できる今、ここに Medline からその根拠となる論文を拾い講義のごく一部を Immunological tolerance viewed from history としてメモ書きにした。そして当時の著者の汚いノート（平成1年5月30日）を [ココ](#) にしまい込んだ。

(2018年1月19日)

まず歴史的背景として1945年 Owen の仕事から講義が始まっている。

Placental anastomosis の話である。

[IMMUNOGENETIC CONSEQUENCES OF VASCULAR ANASTOMOSES BETWEEN BOVINE TWINS.](#)

Owen RD.

Science. 1945 Oct 19;102(2651):400-1. No abstract available.

80組以上の牛の双子を調べ、ほとんどが同じ血液型であることを調べている。

つぎに1950年 Fenner & Burnet の話である。

[Genetics and immunology.](#)

BURNET FM, FENNER F.

Heredity (Edinb). 1948 Dec;2(Pt. 3):289-324. No abstract available.

そこに行きつく話として Hasek の鶏と七面鳥の卵のパラビオージスの実験を紹介している。

[\[Parabiosis of birds during their embryonic development\].](#)

HASEK M.

Chekhoslovatskaia Biol. 1953 Apr;2(1):29-31. Undetermined Language. No abstract available.

さらに講義では1953年の Medawar のマウスの neonatal tolerance 実験へと話が進んでいった。

[Actively acquired tolerance of foreign cells.](#)

BILLINGHAM RE, BRENT L, MEDAWAR PB.

Nature. 1953 Oct 3;172(4379):603-6. No abstract available.

そして「移植免疫の発展」「ミケランジェロ広場」の話と展開していた。